

タウントーク あなたの街で 市長と語ろう！



今月は、北区・豊平区のタウントークの模様をお伝えします。芸術・文化や地域のまちづくりなど、市政の新しい方針である「さっぽろ元気ビジョン」に示されている内容を中心に、活発な議論が交わされました。

●タウントークに関するお問い合わせは、区役所（17ページ）の総務企画課か市民の声を聞く課 ☎211-2042へ。内容は、市長のホームページ<http://www.city.sapporo.jp/city/mayor/>からもご覧いただけます。

北区タウントーク

「子どもも大人も、伝統文化に親しめるまちづくり」

十月十九日、篠路地区の文化祭に合わせ、篠路コミュニティセンターで行われた北区タウントーク。市長は、篠路中央保育園の園児による「篠路子ども歌舞伎」を観劇。上演後、子どもたちに直接声を掛け、お菓子を手渡しました。盛大な拍手に見送られて子どもたちが帰りました。

十月十九日、篠路地区の文化祭に合わせ、篠路コミュニティセンターで行われた北区タウントーク。市長は、篠路中央保育園の園児による「篠路子ども歌舞伎」を観劇。上演後、子どもたちに直接声を掛け、お菓子を手渡しました。盛大な拍手に見送られて子どもたちが帰りました。

◆篠路中央保育園 園長 年長児のカリキムラムに取り入れてから今年で十八年目。毎年、地域の催しなどで披露しています。

◆同園 長津美代主任保育士 けいこの約束ごとを守ったり、舞台上で演じたりすることが子どもたちの喜びと自信につながり成長しています。歌舞伎を経験した園児は七百人を超えています。

◆市長から せりふや動作も堂々としていて、立派な舞台でした。感受性が育つ幼少期に自分を表現する機会を持つことは大切なことです。どうかこれからも続けてください。

◆篠路歌舞伎保存会 恒雄会長 明治三十年代から昭和の初めにかけて旧篠路村烈々布地区の青年団が農村歌舞伎を演じていました。その後、五十年ほどの空白がありました。昭和六十年に保存会が発足し、翌年から保育園での子ども歌舞伎が始まりました。そのような歴史を地元の人に知ってもらいたいです。

◆市長から 札幌の街がこれまでに発展したのは、多くの先輩たちの努力のたまものです。彼らから受け継がれたのが地域の文化です。近年、人の結び付きが弱くなったと言われますが、共通の文化的財産を持つことで、「札幌に住んでよかった」と思える街にしていきたいですね。



◆参加者から 篠路には、かつて農村青年たちが演じていた歌舞伎座がありました。先人たちが築いたその文化をこの地域に根付かせるために、花道のある舞台を造ってほしいと思います。

◆市長から 今、「北海道劇場構想」といって、北海道に歌舞伎などにも対応できる劇場を造ろうという計画があります。また、練習場所としては学校の空き教室を活用するなど、今ある施設をどのように役立てていくかも重要な課題だと思っています。